学村	交教育目標	自他のよさを尊重し、豊かな心 主体的に学び合える!		Ī			考えを分かりやすく伝えることができる子どもの	八年四川立のなるこれ子(NOI) かりやすく伝えることができる子どもの育成 の心で他者に接し、助け合うことができる子ども ○自分のめあてに向かって最後までやり抜く子ども		
		評価計画		自己評価		学校関係者評価		改善計画		
	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策 (案)		
	自分の考えを書い て整理することが できる子ども	① 自分の考えを図や言葉、矢印等でノートに整理させ、根拠や理由を明らかにしながら聞き手に伝わるように説明できるように指導する。  ② 「みなとタイム」を計画的に実施し、「未来への一歩」等の教材を活用した	<ul> <li>○ 「学習指導」の教師自己評価シートにおける「図・式・言葉をつないで自分の考えを整理させる」の項目での担任の成果評価 →平均3.5以上(5段階評価)</li> <li>○ 「未来への一歩」のステップアップシート(目標達成シート)</li> </ul>	4	<ul> <li>         ○ 算数科の学習において自分の考えを作る時間を設定し、考え方が分かるようにノートに整理したり、友達に説明したりする取組について、全学級で共通実践することができた。</li> <li>         ○ 校時程を見直し、「未来への一歩」等の基礎基本に取り組む「みなとタイム」に、管理職や低学年担任も指導にあたる体制を整えたことで、複数の職員で</li> </ul>	A	・学校の評価は妥当である。 ・自分の考えを図や表と矢印等でノートに整理させ根 拠や理由を明らかにすることは、視覚的にも、ま た、子どもが学んだことを振り返る点においても有 効だと思う。 ・基礎基本を定着させる「みなとタイム」はとても大 切な取組なので、引き続き充実させて欲しい。	・算数科の学習を中心に、考えを作ったり説明 したりすることができるようになってきたの で、次年度は、相手の話をしっかり聞いて考 えることに取り組ませ、目的を明確にした質 の高い説明活動に取り組ませる。 ・「みなとタイム」の運用と指導体制が確立で きたので、次年度も複数の職員で個別指導に		
重点		り、T・Tなど個別の指導指導体制を工夫したりする。  ③ 総合的な学習の時間(海洋教育、防災・減災教育)では、体験的活動を重視し、PDCAサイクルを機能させながら調べ、考えたことをまとめ、他者に伝えることができるように指導する。	前学年の問題を1回で全間正解 100% ○ 総合的な学習の時間のワークシート や発表で「海のことについて調べて 考えたことを他者に伝えることがで きた」(教師の見取り)80%以上	<b> </b>	個別指導に取り組むことができた。  △ 繰り返し基礎・基本問題に取り組んだが、前学年の問題を100%の子どもが全問正解100%を達成することはできなかった。  ○ 体験を重視した活動を仕組んだことで、感じ、考えたことを、リーフレットやポスター、動画など工夫して他者に伝えたり、学習発表会で発表することができた。	A A	ノートの整理の仕方が教室に掲示してあり、素晴らしい取組だと思う。 ・家庭学習は、子どもだけではなく、家庭環境にも大きく左右されると思う。低学年のうちに習慣がつくように家庭への働きかけが大切だと思う。 ・学校以外のどこが一番集中して勉強できるかを家庭と共有するとよいと思う。 ・現在の多様な社会の繁栄として児童の家庭はいろい	あたり、前学年までの基礎・基本的な問題を 1回で全間正解るるようにしっかり取り組ん でいく。 ・家庭学習について、家庭での理解、協力を求 めていくとともに、タブレットドリルの活用 や普段の学習と関連を図るなど工夫を力と ・総合的な学習の時間について、体験したこと から自分事として考え、図や矢印等をつかっ		
標	<b>殿掛め用いめ</b> りの	<ul><li>④ 家庭学習において、自分の考えをもつための基礎となる力をつけるために、家庭学習に自ら取り組ませる。</li><li>⑤ 生活規律目標を定めた「7つの目標」の</li></ul>	<ul><li>○ 家庭学習カードの自己評価で「自分から進んで家庭学習に取り組んだ」と回答する児童 90%以上</li><li>○ 3部会の「心の部」によるさんSUN運動」:</li></ul>	3	<ul><li>○ 家庭学習強調旬間を設定することにより、意識して 取り組んでいる子どもも多いが、まだまだ自分から 進んで取り組めていない子どももいる。</li><li>○ 心の部の取組(「さんSUN運動」: 友達を呼び捨てに</li></ul>	A	ろな問題をかかえていると想像できる。学校の先生 方の努力だけでは解決できないこともあると思う。 ・学校の評価は妥当である。	てまとめることができるよう指導していく。 ・「さんSUN運動」のように、学校全体で共通し		
	心で他者に接し、 助け合うことができる子ども	中で、特に挨拶、丁寧な言葉遣い、返事 について、徹底して指導する。	友達を呼び捨てにせず、「さん」を付けて 呼ぶよう指導する取組 達成率80%以上 〇 職員による教育活動評価「道徳科の 授業づくりを充実させ、思いやりや 感謝の心を育てている」 平均3以上	4	○ 心があいな献(「さんがは座動) 及産を呼り着では せず、「さん」を付けて呼ぶよう指導する) ことに より、子どもの言葉遣いが丁寧になってきた。ま た、乱暴な言葉遣いの子どもには、子ども同士で注 意する姿も見られるようになってきた。 ○ 具体的にまわりの人の思いに気付かせたり、相手の 気持ちを想像させたりするなど、思いやりや感謝の		・ 子ない計画は安当くめる。 ・ 「さんSUN運動」と合わせて、道徳科の授業において思いやりや感謝の心を育てることは非常に効果のあるものだと思う。 ・ 登校時、異学年の児童と笑顔で会話をしながら歩く姿に、優しさを感じる。心の部の取組の成果だと思う。	て取り組んだり、振り返りの活動を手間のかからないものにしたり、成果を可視化し子ども達と共有したりできる取組は、大変有効であるので、次年度も心の部として取組を考えていく。 ・メルシーアーチや笑顔郵便等は、異学年での		
部価	<b>ウハの</b> 以よ <i>で</i> に白	<ul><li>⑦ 異学年や友達との交流 (メルシーアーチ、笑顔郵便) で感謝の気持ちを伝えたり、思いやりの心を表現させたりする。</li><li>⑧ 生活規律 (返事や言葉使い) や学習規律</li></ul>	(4段階評価)  ○ 大牟田市実施の学校生活アンケート「 友達との関係」に関する児童の評価 1.2以上(上限値2.0下限値-2.0)  ○ MCAの会による自己評価と児童の	4	心を育てる授業づくりに取り組む職員が増えた。 ○ メルシーアーチ、笑顔郵便等で友達と関わらせた り、感謝の気持ちを伝えたりすることで、関係もよ くなり、学校生活アンケートで1.2以上の評価に なった。 ○ MCAの会で生活規律と学習指導に関して、チェック項	A	<ul><li>学校の評価は妥当である。</li></ul>	関わりや、児童会が主体となって認め合った りするよい機会となっているので、これから も目的を意識させ、継続していく。 ・今後も授業研究等を通して、道徳科の授業作 りを工夫する。 ・生活規律や学習指導に関しては、全職員で取組を意		
Щ	日ガンののでに向かって最後までやり抜く子ども		実態評価の実施100%  毎月末の児童の振り返りにおける目標達成率 70%以上	4	○ MANAの名で生活が保定子自指導に関して、アエック項 目を見て自己評価することにより、取組を意識し、 継続することができた。共通事項で指導すること で、子ども達の目標に向かって取り組む姿勢が見ら れるようになった。 ○ 学級に個人の目標を貼り、毎月振り返る活動を全学 級で共通実践したことで、子どもは成長している自 分を自覚することができ、自信をもてるようになっ てきた。	A A	・ 5年生、6年生は特に、中学校での生活を見通した 取組や指導を行うことで、中1ギャップの解消につ ながると思う。 ・ 「スポーツタイム」の長縄跳びは、学級の子ども達 の気持ちがまとまるよい取組だと思うが、それだけ に苦手な子どもが負担を感じないよう配慮して欲し い。 ・ 学級で個人の目標を貼って、振り返る運動は、子ど	主信が呼り、共通項目で指導したりすることで効果を高めることができたので、次年度は、共通項目を中学校での取組も参考にして見直し、7つの目標から各学級の実態に合わせて重点化したり、達成した目標は、毎回の振り返りに挙げないなど整理して取り組んでいく。 ・目標に向かって継続して取り組ませるよう、目標を意識させ毎月振り返り、自信を付けて行くようにさせる。		
	1.1~从の土炉に止	<ul><li>前の活動の時間「スポーツタイム」において、記録を掲示し更新を意識して学級で協力して長縄跳び等の運動に取り組ませる。</li><li>(1) 各種アンケートや細かな児童観察による</li></ul>	<ul><li>○ 体力向上部の取組(「スポーツタイム」楽しみながら記録更新チャレンジ)への参加 80%以上</li><li>○ 学校生活アンケートと面談による早</li></ul>	4	○「スポーツタイム」での長縄跳びの記録更新チャレンジに学級で協力して取り組むことで、どの子も目標に向かって取り組むことができた。 ○ 学校生活アンケートを実施したときには、その結果を見なが	A	・ 子級 に個人の日保を知って、派り返る運動は、子どもの自尊感情を育てていく上でとても効果的だと思う。これからも継続的に行ってほしい。 ・ 学校の評価は妥当である。	「スポーツタイム」は長縄跳びにも慣れてきたので継続しつつ、リレー、特久走、ドッチボールラリーに取り組む。     いじめについては、個別に丁寧に対応してきた。被		
いじめ	やいじめ問題の解 消		期発見率 100% (毎学期)	4 4 3	・ 子は玉伯ナットでも実施したとさには、ての端末を見なから子どもと面談し、丁寧に関き取りを行ったので、いじめを早期発見することができた。	A	・表面上は、判断が難しいいじめもあると思うので、引き続き 子ども達の心に寄り添った取組をして欲しい。 ・地域で共有できることは知らせて欲しい。 ・いじめの発見解決は困難である。児童心理の専門家が対応す るのがベストだと思う。 ・いじめ・不登校の問題などの生活指導は、先生方の勤務時間 に大きく影響している。基準を設けて、基準を超えたら、別 組織で解決したほうがよいのではないか。	害者の要求を聞き取り、組織として対応を行った結果、解消に向かうことができた。次年度もアンテナを高くし、いじめチェックリストや子どもの変化に		
不登校	と不登校の解消	(4) 「福岡アクション3」に基づいた全教職員による実践を徹底する。 (5) 「子どもを見つめる会」による全職員での情報共有と、マンツーマン対応等による役割分担等をして組織的対応を行う。 (6) SC、SSW、関係機関との連携して、家庭訪問や声かけなどの取組を行う。	○ 「福岡アクション3」に基づいた児童への指導、支援の実施率 100% ○ 子どもを見つめる会の実施率 100%(毎月)生徒指導担当を中心にした短期間でのチェックなどきめ細かで組織的・継続的な対応の確実な実施 ○ 学校生活アンケート「登校意欲」に関する児童の評価 1.0以上(上限値2.0下限値-2.0)	4	○ 「福岡アクション3」に基づいた対応を行ったことで、不登校傾向にあった子どもが少しずつ登校できるようになってきた。また、保健室で過ごす時間も短くなってきた。また、保健室で過ごす時間も短くなってきた。 ○ 子どもを見つめる会での共通理解と担任一人で抱え込まず、朝登校してきていない子どもの確認を行い、情報を共有して、電話連絡や遅れてきた子の対応など組織的・継続的な対応を行うことができた。 ○ SC、SSWに積極的に相談、家庭訪問や保護者との連絡等の依頼を行ったり、教育相談室に専門的な助言をいたがいたりして対応することができた。	A	・学校の評価は妥当である。 ・今後も宅峰中校区内でのSC及び養護教諭を中心とした小中合同の研修会を行いながら、気になる子どもの情報を共有し、早期の対応が出来ればを思う。 ・毎朝家庭訪問をされる先生もあり、不登校の子ども達と向き合っているのがよくわかる。今後も担任の先生が一人で抱え込まない体制を整えて欲しい。 ・不登校の発生原因は個人によって様々だと思うので、解決するのは困難であると思う。各思方の問題があり、児童にしわよせがきていると思う。のに譲者とのコミュニケーションが大事だと思う。。	・ 不登校の理由が多様化してきており、子どもや家庭の実態を情報として共有し、全職員で組織的・継続的に対応してきた。また、SC、SSWやその他の機関にも連絡し、相談や依頼を行ってきた結果、少しずつ登校意欲も上がってきているので、次年度も継続して、組織的に対応していく。不登校になってからの対応だけではなく、楽しい生活・学級づくりに努めていく。 ・ 定峰中学校区内での情報共有は、早期対応に大変有効であると思うので今後も継続していく。		
働き方改革	務と勤労意欲の向 上	行う。 水曜5校時による放課後の時間の見直し により、水曜以外の学級事務の時間を確 保する。	職員の割合 →70%以上	2	<ul> <li>○ 水曜4校時の時に会議や研修を組むなどして、その他の曜日には、会議を入れなかったために、学級事務をする時間ができたり、学年や校務分掌の仕事について話し合うことができたりした。</li> <li>○ 人手不足や職員のコロナ、インフルエンザ罹患などで休んでいる間のプリントや問題集の採点などにより超過勤務45時間以上の職員がなかなか減らなかった。</li> <li>② 人と(60%~70%)</li> </ul>		・学校の評価は上方修正すべきである。 ・学校の評価は上方修正すべきである。 ・なかなか難しい課題だと思う。個人の意識を変えていく必要があり、達成率を成果指標とすると難しいのではないかと思う。 ・先生方も自分の心身を大切にして欲しい。勤務時間を減らすことがストレスにならないように気をつけて欲しい。 ・目標を達成できなかったのは、感染症が原因になっているので仕方ないと思う。	・ 退校時刻を設定し、意識することで、個人内での働き方を工夫する職員は増えてきたと思うが、若年教員や初めての主任などにとっては、時間内で文章を整えたり、起案文書を作成したりすることに時間を要することは事実であるので、参考文例や事例などを活用させたり、時期によって軽重を付けさせたりする指導をしていく。		

 <sup>・【</sup>自 己 評 価】 4:目標達成(90%以上)
 3:ほぼ達成(70%~90%)
 2:もう少し(60%~70%)
 1:できていない(60%未満)

 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である
 B:自己評価は上方修正すべきである
 C:自己評価は下方修正すべきである

			<u>수민</u>	<u> </u>			田田立みなど子校(NU2)
	評 価	計画		自己評価		学校関係者評価	改善計画
領域	評価の観点	評価指標(①取組指標または②成果指標)	評価	71 (70) TO C 1910 C - 7	評価	コメント	次年度における改善策(案)
	特色ある教育課程の編成と実施	週指導計画案や授業参観を通した教育課程の実施状	,	○週案での授業のポイントを把握し、		・学校の評価は妥当である。	・次年度も校内研究をもとに、
	(質的・量的)	況(時数・内容)の確認	4	授業を参観し、指導助言を行った。	A	・教育課程評価をもとにしてきちんと評価	しっかり聞いて考えること
教育課程	学習指導法の工夫とその改善	めあてからまとめまで、子どもが主体的に考えるこ	. ]	△子どもの思考の流れに沿って、子ど		がなされている。また、教職員の意識向	できる授業づくりや子ども
学習指導		とができるような発問や交流場面がある授業の実施	ī   3	もから考えを引き出す発問や課題設	A	上が図られ、確実な授業改善が行われて	考えを引き出す授業作りに
		習熟度別少人数指導の体制づくりと実践		定などの授業作りが必要。		いる。	める。
	配慮を要する子どもの早期発見	毎月の「子どもを見つめる会」の実施と学校生活ア		○「子どもを見つめる会」では、全学		<ul><li>・学校の評価は妥当である。</li></ul>	<ul><li>・「子どもを見つめる会」で</li></ul>
	・早期対応	ンケートを活用した子ども実態の把握及び共通理解	- 1	年の支援が必要な子どもの把握、共	Δ	・子どもをしっかりと見守りながら組織的	確実な子どもの把握、共通
と 生徒指導	問題行動等の未然防止と組織的	生徒指導部会を中心とした組織の明確化と報告・連		通理解ができた。	- <u>-</u>	な対応がなされていると思う。	解を行うとともに、いじめ
2 土化11年			=		١, ١	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	対応	絡・相談の体制づくりと機能化	<u>-  </u> -	△いじめ問題について、全て解決する	_A	・全職員で全校児童の状況を把握すること	問題について未然防止の観
	「支える」生徒指導の推進	自己決定・自己存在感・共感的人間関係・居場所で	·	ことができたが、未然防止のための		は、小さな変化に気付くことにつながる	から自己指導力を育成して
		くりを通した自己指導能力の育成	4	更なる自己指導能力の育成が必要。	A	と思う。	<.
	保健管理体制の充実	保健管理の確実な実施と事故及び災害発生時の迅速	1	○毎日子どもの出席状況を朝の内に確		・学校の評価は妥当である。	・次年度もリーバーの活用と
保健管理	病気や怪我などの予防	な対応		認、欠席者に連絡を行った。また、		・遅刻する子どもも多いので、出席の把握	護教諭との連携で毎日の子
f		・緊急を要するときの全職員での組織的で早急な対	$\mid 4$	緊急時には、素早い対応と確実に連	A	をするのも大変だと思う。	もの出席状況の確認を確実
		応と確認		絡、報告を行い共通理解できた。		・複数の養護教諭配置が必要ではないか。	行う。
	校内の安全管理	毎月の安全点検の確実な実施と迅速な対応		○毎月確実に安全点検を行い、補修が		・学校の評価は妥当である。	<ul><li>・定期的な安全点検と複数人</li></ul>
安全管理			4	必要な場所は、迅速に対応した。	A	・定期的な点検がきちんと組織的に行われ	での確認を次年度も行う。
7212	安全に関わる職員・子どもの意	年間3回の避難訓練の実施		○避難訓練の時には、子どもは真面目		ている。	<ul><li>・引き渡し訓練の見直しと継</li></ul>
	識の向上	年間1回の防犯教室・交通教室の実施	1	な態度で取り組むことができた。	Δ	・引き渡し訓練も充実していた。	を行う。
J	子どもの正確な実態の把握と個	特別支援教育校内委員会及び全体会での共通理解と	. 4	○支援が必要だと感じた子どもについ	Λ	・学校の評価は妥当である。	- 117。 ・特別支援教育支援員との打
,			•				
4-111十一位 #4-大	に応じたきめ細やかな支援	個に応じた適切な指導の実施		ては保護者へ丁寧に説明を行い、相	١. ا	・今後も校区内での養護教諭、SC、SSW等	
特別支援教育		・特別支援学級、通常学級との交流教育の実施	4	談の上、個に応じた支援につなげる	A	を含めた定期的な情報交換会を継続しな	支援を継続して行う。
		・個別の支援計画及び個別の教育指導計画の作成		ことができた。		がら、早期の対応を行っていくことが大	・中学校との情報交換会を行
						切だと思う。	対応の継続に努める。
	校務分掌(校内組織)の明確化	3部会(学力向上部、体力向上部、心の教育部)の	)	○△3部会の取組により中核教員の育		・学校評価は妥当である。	・ 3 部会のリーダーを中心に
組織運営	と機能化	リーダーシップが生きる管理職の支援体制の構築	3_	成が進んでいる。今後、更に校内OJ	_A	・組織を3部会に分け、組織的な対応がな	実なPDCAサイクルの実施と
	会議の効率化と職員の情報共有	共有フォルダ内のデータで提案したり、即修正。部	3	Tを推進し、中核教員の自主性や計		されていると思う。	果が可視化できる取組の工
		で話し合ったことを誰でも見ることができるよう	4	画性等を育む必要がある。	A		を行う。
	校内研究テーマの取組の日常化	学習展開時に交流の場面で自分の考えを分かりやす	-	○校内研究テーマに合わせて、研究授		・学校評価は妥当である。	・校内研究テーマに合わせた
研 修		く説明する活動を仕組む	4	業以外でも分かりやすく説明する姿	A	・校内研究テーマに沿って組織的、計画的	業実践を継続する。
12	校外研修・自主研修への積極的	福岡県教員育成指標に沿った年1回以上の研修への	- <del> </del> <del>-</del> -	が見られた。		に研修が進められていると思う。	<ul><li>自己のキャリアステージを</li></ul>
<u> </u>	参加	参加	3	△職員が主体的に研修を受けるよう、	A		識させ、主体的に研修を受
'	973H	<i>₩</i> /Jµ	1 "	管理職の声かけを更に行う。	11		るように促す。
	子どもの実態に基づいた単年度	重点目標の定期的な振り返り (PDCA)		○重点目標については、職員だけでな		・学校評価は妥当である。	<ul><li>・次年度も子どもに重点目標</li></ul>
   教育目標	重点目標の設定		1		,	・教職員だけでなく子ども達にも重点目標	次千度も」ともに単点日標   定期的に振り返らせていく
		年3回の教育活動評価・自己評価の実施		\丁ともにも思疎させ、足朔的に派	A		
学校評価	全職員による学校評価参画	年3回の教育活動評価・日亡評価の実施		り返りをさせることができた。	١. ا	を意識させながら取り組まれ評価がなさ	・学校経営に参画する意識を
			3	□△評価を全職員で分析し、全教員の字	A	れている事は今後の参考にしたい。とて	たせるために目標と課題を
				校経営参画意識を高める。		もいいことだと思う。	有する場を多く設定する。
	保護者・地域への情報発信	学校・学年便り等の定期的な発行と「Mボード」に	:	○学校・学年便り、「Mボード」により、		・学校評価は妥当である。	・学校・学年だよりやこまめ
		よる情報提供	4	情報を発信することができた。	_A	・こまめな「Mボード」の配信により学校	「Mボード」の配信を継続する
情報提供		授業参観、PTA各種会合、主任児童委員会会合て	5	○主任児童委員の方々と毎月話し合う		の様子がよくわかり、身近に感じた。	・次年度も主任児童委員との
		の情報提供	4	ことで、情報を共有することができ	A	・主任児童委員としての会議は、地域の子	議による地域での子どもの
				た。		どもを知る大切な場となっている。	報を共有する。
	宅峰中・近隣保育所・幼稚園と	宅峰中学校区小中連絡会の設定 (年5回)		○宅峰中学校区の定期的な小中連絡会		<ul><li>・学校評価は妥当である。</li></ul>	・学習発表会では、全学年の
保護者・地域		保育所、幼稚園等からの情報収集	4	で情報共有ができた。	_A	・地域行事に参加することは、地域の活性	習の成果をどの保護者にも
との連携	\	地域行事への積極的な参加及び学校行事への招待		<ul><li>○4年ぶりに行われた県境大蛇山で声</li></ul>		化につながり、地域にとっても大切なこ	ていただくことができたの
C -> Æ1/9	頼関係づくり	THE PROPERTY OF THE WITH	1	かけをしたり、みなと祭りに参加し		とだと思う。	で、今後は地域の方々への
			4	たりなど地域行事に積極的に参加す	Λ	C /C C /凸 / 0	そ、う後は地域のガベベの
							1寸 51快削り る。 
	#1> #1> V2.51   12.55 - 13		,	ることができた。	$\vdash \vdash \vdash$	W.1457/m) 1 75 W 4 7	A 24 ) 41 bb ~
tot al. a		学校施設、設備の活用状況と整備状況の確実な把握	Ì	○安全点検を含めて、必要な場所は素		・学校評価は妥当である。	・今後も教室等の環境を整え
教育環境整備	果的活用と整備		4	早く整備することができた。	<u>A</u>	・校内外共にきちんと整備がなされ落ち着	VY.
		教材・教具、図書、教育備品の整備状況の確実な把	1	○算数のプリント教材など教材を揃		いて雰囲気の学習環境が作られている。	・タブレットドリルの活用な
	整備	握	4	え、活用することができた。	A	・今後も安全点検を徹底して欲しい。	タブレットの利活用を行う
		<b>煙達成(9.0%以上) 3.14ば達成(7.0%~</b>	0 0 0/	$2 \cdot \pm 5 / k \cdot 1 (6.0 \% \sim 7)$	0.0/	1・できていたい(6.0%未満	\

1:できていない(60%未満)

◇ 評価について ・【自 己 評 価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%)・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである